

新潟情報。

Free Magazine 無料

2013 8.7-14 wed
vol.289

毎週19.2万部発行 新潟市内・近郊
16.3万部（掲載先）/27万部（請求先）

美味しくてヘルシーなメニューがたっぷり

夏こそ飲みたい ミックスジュース&スムージー

美味しいお店巡り

わくわくLUNCH

女性のキレイをつくる美容特集

結婚披露Present

ブライダルフェアへ出かけよう

Event / Topics

asme おトク情報 / 1000円以上のLUNCH

住宅情報 / 求人情報

Beauty Healthy Healing



【キラリ★にいがた人】

新潟県財政運営 理事

内野 葉子さん



自分自身を高めながら
 長く剣道が続けることが目標

小学4年生の頃に、剣道を始めたという内野さん。出身地の九州は剣道が盛んな地域で、剣道の教室に自ら入った。「子ども時代は、男勝りな子だったんです。他の女の友達があまりして、いないスポーツをやりたいと思い、剣道を始めました」と笑う。中学、高校、大学も剣道部に所属。高校2年生のインターハイでは、個人優勝の実績もある。大学卒業後に中学校教師となつてからは、剣道部の顧問として生徒を指導してきた。現在は特別支援学校に勤務しながら、国体成年女子の監督も務める。

という教えがある。修行をする過程において重要な要素を示したもので、一番に重要なのが相手の動作を見破る眼力、次に足さばき、その次に度胸や気力、最後に技術を発揮する力なのだという。「体力だけで勝敗が分かるものではないからこそ、奥が深く難しいスポーツ。女性でも、年齢に応じた剣道ができるところが魅力だと思います」。今年5月、内野さんは新潟県剣道連盟の理事に選出された。剣道をする女性の増加に伴い、女性の意見を吸い上げ県の剣道界に反映しやすくするという目的も担う。「これからの時代、女性がこのような立場に立つことが大切になってきているのかなと感じます。剣道をする人が増えるよう、女性の視点からも普

5月、県剣道連盟初の女性理事に就任

新潟県剣道連盟 理事
 内野 葉子さん

福岡県出身、新潟市在住。国体成年女子の監督としても指導にあたる。女性では全国最高段位の7段を保有。新潟県立新潟聾学校に勤務。

「剣道を通してたくさんの人と出会うことができました。これからもたくさんの出会いがありますように」

一期一会

及活動をしていけたら」。これまで歩んできた道のりには剣道が共にあった。くよくよと考えてしまう時は、稽古をすると忘れるという。「縁あつて剣道が続けてきて、改めて剣道は素晴らしいと感じています。今まで勝負にこだわって稽古をしてきましたが、これからは剣道ができることに感謝し楽しく稽古をしていきたい。そして長く続けていきたいですね」。



2005年に7段を取得した時に、剣道仲間から贈られた竹刀袋。新潟県内には女性の7段保有者は6人おり、内野さんもその1人。